評 価 結 果 報 告 書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2571800107
法人名	社会福祉法人　達真会
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設「ささゆりの家」
訪問調査日	2008年　3月　27日
評価確定日	2008年　4月　15日
評価機関名	社団法人　滋賀県社会福祉士会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　2008年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	滋賀県指定　第2571800107号
法人名	社会福祉法人　達真会
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設　「ささゆりの家」
所在地	〒522-0322　滋賀県犬上郡多賀町大字佐目675番地 （電　話）0749－49－8030

評価機関名	社団法人　滋賀県社会福祉士会
所在地	〒520-2352　滋賀県野洲市冨波乙681－55
訪問調査日	平成　20　年　3　月　27　日

【情報提供票より】（平成20年3月6日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　13　年　9　月　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤 8 人，非常勤 1 人，常勤換算 8.6　人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート　造り
	1 階建ての　階 ～　1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	33,000　円	その他の経費（月額）	30,300　円
敷　金	有（　円）	○　無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） ○ 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食　円	昼食	円
	夕食　円	おやつ	円
	または1日当たり　1，380　円		

（4）利用者の概要（　月　日現在）

利用者人数	9 名	男性　0 名	女性　9 名
要介護1	0　名	要介護2	3　名
要介護3	1　名	要介護4	4　名
要介護5	1　名	要支援2	0　名
年齢　平均	77，8　歳	最低　74 歳	最高　98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	川相診療所　・　彦根中央病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ささゆりの家」は平成13年9月に、廃校になった小学校の跡地に建設された。その後、特別養護老人ホーム、デイサービスなどが開設され、現在は地域の福祉ゾーンとなっている。理念は「やりたいこと」への生活支援、ということで、個々の利用者の希望をくみ取りながらの生活支援がされている。行政とも意思疎通を図り、除雪や広報誌を配布する時など便宜を図ってもらっており、地域の様々な行事や健康教室への利用者の参加など地域とのつながりも深くなりつつある。職員は気分を変えて勤務できるように、勤務を離れて休憩する時間をとっている。ターミナルケアについてはまだ該当者はなく検討中である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

「理念の明示」ということについては、この施設固有の考え方のもとに前から明示しておられない。パンフレットにははっきり書かれており、理念に沿った注意したい事が大きな字で書かれ、食堂に貼られていた。研修参加については、研修参加した方の話を聞くことより、実際に研修に参加することが大切という考えのもとに、希望に応じて参加できるように取り組んでおられる。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価は、管理者が一人で行った。職員と自己評価する意義を話し合い、前向きに取り組むようにしてほしい。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

グループホームの活動状況の報告や、行事についての話し合いである。この会議の席上で、地域包括支援センター職員から、地域で月一回行われている健康教室に参加してはどうかという意見が出て、現在グループホームの利用者が何人か参加するようになった。地域で行われるさまざまな行事についても話し合われる。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族の意見や苦情などを聞きだそうという意欲はあるが、なかなか本音が聞き出せないでいる。アンケートによって意見を聞こうとした試みもされたが、前回はうまくいかなかった。色々工夫して、家族の率直な意見を引き出そうとする姿勢は十分感じられた。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地域の行事に参加したり、施設内の行事に来ていただいたりしている。また、地域で月1回開催される健康教室に、参加している。法人が2か所の地域で週1回デイサービスを開催しているが、そこへもグループホームの利用者は参加し、地域の方々と交流をしている。近くに住んでいる方が遊びに来てくれたり、施設内のデイサービスを利用している方が、遊びに来られたり、近くの商店の人が配達ついでに話していかれることもある。地域住民との交流は盛んである。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、「できること」の自立支援から「やりたいこと」への生活支援ということであるが、地域のいろいろな行事に参加したり、デイサービスの利用者と施設内で行き来するなど地域の方々と利用者が親しく交わる機会を理念に沿って、意識して作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常日頃、利用者の希望・要望を聞きだし、実現に向けて努力するなど、管理者・職員共に、理念の実践を心がけている。		
・					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には、法人単位で入会し、地域の作業にも参加している。地域で行われる運動会や祭りなどにはグループホーム用のテントも用意され、積極的に参加している。また、月一度開催される健康教室にも、誘われて参加し、地域の方々と交流している。近所の方が遊びに来てくれることもある。週1回2か所でサロンを開設し、グループホーム利用者も参加している。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者が一人で行ったもので、職員は行っていない。	○	年一回行われる、この外部評価の機会を、日ごろのケアを見直す好機会と考えて、職員が前向きの気持ちで自己評価に取り組めるように、話し合い、実践してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に一度開催され、メンバーは利用者代表、家族代表、区長、地域包括職員、施設長、主任、管理者である。グループホームの状況報告や行事について話し合われる。この席で、包括職員から、地域で月一回開催されている健康教室へ参加してはどうかという意見が出され、現在、利用者が参加している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町からの要請があり、認知症について講演したりしている。また、キャラバンメイト活動を施設内でしてはどうかと提案中である。町には、除雪作業や、定期的に発行する広報誌の全戸配布に際して援助をしてもらったり、便宜を図ってもらっている。常に現状の報告をし、つながりを深める努力をしている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回、担当者が現状報告をしている。必要時にはその都度連絡している。また、訪問時にも要望・意見など聞きとるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱等設置し、訪問時等にも聞きだす努力はしているが、なかなか意見や要望は出てこない。アンケートを実施したことがあるが、前回はいろいろ不備な面があり、うまくいかなかった。	○	意見・苦情・要望等は、なかなか面と向かっては言いにくいこともあるので、アンケートはとても良い方法と思う。前回の反省に立って、工夫して再度実施するなど、家族の気持ちを聞きとる努力をしてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力抑えている。施設長は全ての職員と年に一度面談し、要望や悩み等を聞く機会を設けている。又社員寮を準備し、遠方からの職員が通勤しやすい環境を整える等、離職に繋がらないような努力が伺える。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも研修がある。外部の研修にも、希望に応じて参加するようにしている。研修内容を職員に報告することも大事だが、自分で参加することが一番と思われるので、なるべく交代で参加するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会を通じて職員が行き来して他の事業所での研修をしている。他の事業所での研修をしたいという要望は多いので今後も実施していきたいとのことであった。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の変動も少なく、最近一人亡くなられたため、新規の入居があった。その方の場合はショートステイ利用者であり、施設には慣れておられたが、入居当時は混乱がひどかったので、家へお連れしたり、近所の方に遊びに来ていただいたりいろいろ工夫して、慣れていただいた。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訪問時に職員が利用者に肩をもんでもらっている光景を目にした。とてもなごやかな雰囲気であった。利用者に料理方法を教えてもらったりすることも多い。同じ話を聞くことにうんざりすることもあるが、話している利用者の嬉しそうな表情を見ると、聞いてよかったと思う、とある職員は言っていた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の個別の記録に、気付いたことなどが細かく書かれており、それが介護計画に反映されている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	以前に一人の利用者についてセンター方式でアセスメントを実施したところ、職員が共通認識を持てるなど良いことが分かったので、今後他の利用者についてもセンター方式でアセスメントを実施することにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは6カ月に一度であるが、必要に応じて、その都度見直している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算をとっており、看護師は併設事業との兼務であるが、毎日バイタルチェックに訪れ、健康管理をして、異状を早期に発見するようにしている。また受診に関しては、今後は家族にしてもらおうと思っているが、現在は職員が付き添って行っている。家族に依頼する場合も必要に応じて職員が付き添う予定である。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に施設と連携している医師に変わってもらっており、月2回医師が訪問し、健康管理をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホーム開設以来、利用者の死亡は一人だけである。その方は、99歳で骨折し入院・加療中に状態が悪化して亡くなられた。看取りケア指針は出来ており、特養では実際に看取りが行われているが、グループホームでは、まだ今のところ対象者がいない。今後の課題である。	○	折に触れて、ご本人や家族の意見も聞き、取り組んでほしい課題である。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等個人情報は別室に保管されている。また職員の声掛け等の言葉遣いは丁寧で穏やかである。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事風景では、一人ひとりのペースが大切にされていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態をみると、職員と一緒に準備や片付けをできる方は少ないように思ったが、お茶を汲んだり、お箸を配ったり、できることはしていただいていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として週2回は入っていただいている。希望に応じて、可能な限り入浴していただいている。入浴を嫌がる方もあるが、折を見て誘い、3日に一回は入っていただいている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ごとの生活歴を把握し、その方ができること、得意なことを楽しんでしていただけるように、援助している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買い物は、近くの店に注文して、配達してもらうが、足りないものが出た時等は一緒に、近くの店まで買い物に行く。必要に応じて、車で買い物に出ることもある。また、四季折々には外出して楽しんでいる。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はどこもかけていないが、目の届かない危険な個所もあるので、そこにはセンサーがつけられ、食堂のところで音が鳴るようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、併設施設と合同で、消防署立会いのもと、年2回実施している。夜間については、想定して訓練しているだけである。	○	夜間の避難訓練を実施すると、思わぬ気付きも得られると思うので、ぜひ実施してみてほしい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養士によって立てられている。また、食べられた食事の量や、とられた水分量は細かく記録されている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広い部屋であるが、家具やソファー、テーブルなどで仕切られ、落ち着いた空間となっている。照明はまぶし過ぎないように、模様入りの和紙が貼られ、柔らかい光になっている。テレビも食事の間は消され、静かな中で食事を楽しんでおられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ思い思いの家具が置かれ、ここでの生活がかなり長くなっているので、その人らしい部屋となっている。		